

古川さん作「パバコこんな風に書いたら？」案を、

宇野さんがプリントアウトしてくれていた国の基準案のページ数と対照させ、少し噛み砕いて解説しました。

作成/2012.10.13 栃木総会にて、林美樹&ヨハナ

※パバコを書く時は、下記URLで提案されている基準案のページ数、項目名を明記して意見を書きます。

別紙1(エネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準案)

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000093087>

	ページ数	項目名	キャッチコピー	「これなら言いたいね!」のヒント
1-1	p8下段	1-1:外壁・窓等を通しての熱の損失の防止に関する基準	外皮性能を高めるだけが省エネじゃない!	建物単体の外皮性能以外に省エネに資する項目はたくさんあるはずなのに、外皮性能(断熱)一本やり。蓄熱性、通風、吸湿、周囲環境との関連(緑化など)より多角的にとらえていただきたい。 地域によっては、断熱性を高めることが、冬はよくても、夏はかえって熱がこもり、冷房に依存する結果を招きかねない 我が国では、諸外国とくらべて、家庭におけるエネルギー使用量のうち、家電が占める割合が、暖房よりずっと多い。暖房効率をあげるための外皮の断熱化に力点がおかれているようだが、むしろ、家電における一次消費エネルギー量を減らすことが考えてもよいのではないかと。 土壁真壁づくりでは、断熱材は入りようがないし、開口部も大きい。また、開口部を建具の開け閉めによって調節することで、季節をしぐ知恵は、日本固有の生活文化として継承されている。このような気候風土から生まれた独特の住文化は我が国の伝統文化であり、否定されるべきものではない。この点を除外項目のひとつとして認めるべきである。(この項目をたくさん出すこと)
1-2	p9上段	1-2: 1-1(1)~(3)の除外規定	伝統構法は除外項目に!	土壁真壁づくりでは、断熱材は入りようがないし、開口部も大きい。また、開口部を建具の開け閉めによって調節することで、季節をしぐ知恵は、日本固有の生活文化として継承されている。このような気候風土から生まれた独特の住文化は我が国の伝統文化であり、否定されるべきものではない。この点を除外項目のひとつとして認めるべきである。(この項目をたくさん出すこと)
1-3	p9中段~p10上段	1-3:(1)地域の区分に応じた熱貫流率等の基準	地域性っていうけど?	せっかく地域を8区分に分けてあっても、遵守すべきUA値が同じであって、地域性に配慮しているとは言えない。地域5の新潟と地域7の奄美大島とで要求されるUA値が同じなのは、いかなるものか。
1-3	p10中段	1-3:(2)地域の区分に応じた冷房期の平均日射熱取得率の規準	窓少ないのが、いい家?	温暖な地域において、夏の日射遮蔽が必須であることに異論はないが、窓を小さくすることによって深くではなく、日本の伝統的な木造住宅のように、軒の出が深くする。開口部は広くともヨシズ、簾、緑のカーテンなど、ソフトな工夫で猛暑期の日射遮蔽をする方法がある。建築的な手法以外にも、省エネを実現する方法はある。
2-2-3	p12下段	2:1次エネルギー消費量に関する基準 (3)暖房	薪ストーブは?	暖房の一次エネルギーを求めるときに用いる別表6には、薪ストーブ(バイオマス燃料)が想定されていない。また省エネという観点から見ると、荒れた山の本や建築廃材などを有効利用できる薪ストーブには、省エネ的には高く評価されてしかるべきである。ところが、別表6に扱っていないために、薪ストーブや無暖房のケースについては的確な指定がなく、エネルギーを使う扱いになっているのはおかしい。
2-2-3			こたつ万歳!	出力OWのこたつをなるべく消した状態(さめたら時々つける程度)で使うと、出力OWのエアコンが同じ扱いなのはうれしい。そもそもこたつは部屋の空気をあたためるのでなく、こたつに入っている人があたたかく感じるだけでいい。効率のいい暖房はまず、炭のこたつについては、前項の薪ストーブと同じ。
2-2-4	p13中段	2:1次エネルギー消費量に関する基準 (4)冷房	エアコン無しだってありでしょ~	新築時に冷房を設置しない家が、後から設置するという前提のもとに、冷房の一次エネルギー使用量を割り当てられているのはおかしい。
2-2-3	p13中段いろはにp45表第5	2:1次エネルギー消費量に関する基準 (4)冷房	つけっぱなしが有利?	あたたかく/涼しくなれば冷暖房機器を停める間歇的な使用の方が、ずつつけっぱなしより不利になるのはうれしい。立ち上げ時のエネルギーがかかるという意味?としても、間歇的な使用で使っていない時間の比率が長ければ、それは理屈に合わない
2-2-4	p13中段口	2:1次エネルギー消費量に関する基準 (4)冷房	ビバ扇風機!	扇風機は風を起して汗を蒸発させ、その気化熱で体温を下げる効果がある。エネルギーが少なくして、涼感を得る手軽ですぐれた方法である。しかし、ここでいう「冷房設備」にあたらぬので扇風機のみを冷房する方法(口)と同等に扱われるが、扇風機は、明らかに冷房設備(エアコン)より一次消費エネルギーが少ないはずである。
2-2-8	p15中ほど	2:1次エネルギー消費量に関する基準 (8)その他	まずは家電から	日本は諸外国と比べて、暖房エネルギーの消費は小さく、家電エネルギーの消費が高い。1985年以降、家電による消費だけが倍増している。エコポイントで省エネ家電を買わせたことで、かえって、家庭でのエネルギー消費量はアップしている。暖房よりはまず家電により家庭エネルギー消費を抑えることを考えるのが先決ではないか。
				その他とは、家電を差していると思われるが、ある程度の床面積までは、家電の使用量が床面積が増えるにつれて、増大すると見なされているが、それはいかなるものか。広い家に住んでも、使う家電の種類は劇的に増えるものではない。むしろ住まい手の、ライフスタイルと関係する事柄なのではないか。たとえば、使用している主な家電のチェックリストをつくり、チェック項目に応じてエネルギー使用量が付与されるなど、生活実態に即したエネルギー使用量算定表をつくるなどしてはどうか?